

研究の世界へようこそ！

横浜経営学会 会長 大森 明

経営学部ならびに大学院国際社会科学府経営学専攻の新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます！横浜経営学会では、皆さんを心より歓迎いたします。皆さんは、これから始まる大学生活に大きな期待と不安を感じているかもしれませんが、長い人生の中でも極めて貴重な大学生活をぜひとも有意義に過ごしてもらいたいと思います。

さて、未曾有のコロナ禍も3年が経過し、今漸く、少しだけその出口が見えかけてきているように思われます。しかし、コロナ禍では、これまでの通常の生活は制限され、今まで普通にできてきたことができない状況に多く直面しました。その一方で、コロナ禍は、人間がより良い社会を形作るために築いてきたさまざまなものを根底から考え直す機会にもなりました。例えば、毎日のように会社に出勤し、自席に座って仕事をし、多くの人が会議で一か所に集まって議論をし、さらに遠くの方と交渉するために出張するという一般的なビジネスパーソンの仕事のスタイルは、コロナ禍において、デジタルの力を活用した遠隔ツールの発展と普及により、大きく変わりました。今では、出張することなくリモートで会議ができますし、その空いた時間にさらに生産的な仕事に従事することができます。感染症の拡大に伴う経済活動の停滞というのは間違いなく良くないことですが、そこから新たなビジネスモデルが形成されているのも事実です。

コロナ禍により人類はほぼ等しく負の影響を被りましたが、この逆境から正の影響をもたらすことを考えることができるのも人間の英知がなせる業といえます。人間の英知を結集し、大きな問題を克服していく方策を人々が必死になって考えて乗り越えていく。こうしたことは、研究を通じてもたらされています。研究は、自ら設定した課題に対してその解を論理的に導くものです。そして多くの人々の研究の蓄積の上に、新たな研究が生み出され、そして、人々や社会に役立つものが新たに生み出されています。研究はとても地味ですし、ノーベル賞の授賞くらいしか一般の人々の関心事にはなりません。でも、今、我々が享受しているさまざまな技術や仕組みは、ほぼすべて研究成果の上に存立しているのです。

翻って「横浜経営学会」のお話をしましょう。「学会」は、研究をする人々の集まりですので、横浜経営学会は、横浜国大で経営を研究する人々の集まりということになります。経営学部の教員はみなこの学会に参画しており、経営に関する様々な学問分野での研究成果を発表しています。これから皆さんの授業を担当したりゼミナールで指導したりする教員は、みな研究をしている研究者なのです。その研究者が教えるというのには、大きな意味があります。なぜなら、みなさんも大学では研究をするからです。高校までは、教員（先生）から教わりながら勉強してきたと思います。しかし大学では、皆さんは生徒ではなく学生、語源から学問をする者になります。大学では、確かに研究のベースとなる知識を獲得するために教わる形で勉強することもあります。それは出発点に過ぎません。そこから、能動的に学び、問題を設定し、その解決策を論理的に導くという研究を皆さん自身が行っていきます。そして、集大成の研究成果として、経営学部では卒業論文を、大学院生は修士論文または博士論文を執筆します。こうして培った研究する力は、皆さんが社会に出て直面する様々な課題を解決す

るための方法論を提供してくれます。ぜひ、大学では「研究をする」というマインドを醸成してください。そして、経営学部の教員もそして横浜経営学会も、皆さんの研究活動を支援してくれますので、積極的に教員や学会に関わってみましょう。

最後に横浜経営学会が皆さんに提供しているサービスをお伝えします。同学会では、この文章が掲載されている『経営学会ニュース』という冊子を年1回発行しています。ここには、先生方の研究や留学等のお話が平易に説明されていますし、以下で述べる「経営学会賞」受賞作の要旨などが掲載されていますので、ぜひ、読んでみてください。また、『横浜経営研究』という研究誌を年に2～3回発行しています。教員による最新の研究成果が発表されていますので、ちょっと難しいかもしれませんが、ぜひ、読んでみましょう。卒業論文や修士論文の先行研究として多くの学生が読んでいますし、ゼミ選びにも大いに活用できます。また当学会では、皆さんの研究成果である卒業論文と修士論文のうち、特に優秀なものに対して「経営学会賞」を授与しています。

皆さんには、本学会が提供しているさまざまなサービスを利用して研究力を磨き、実り多き大学生生活を過ごされることをお祈りしています。